



TOKOROZAWA

環境・会報

第16号

所沢市環境推進員連絡協議会
発行責任者 会長 斉藤禮次郎

所沢市ホームページ <http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

—今こそ自分の出来ることから始めよう—

会長 斉藤 禮次郎

今夏の記録破りの猛暑、皆様には如何がお過ごして
したでしょうか？

私達の日常生活において、地球温暖化の影響が疑わ
れるさまざまな変化が生じており、地球温暖化は地
球環境全体の持続可能性を脅かす深刻な問題であり
ます。

「所沢市環境基本計画」の重点テーマとして3つの
具体的な重点的取組みを示す「地球温暖化対策」があ
ります。

①省エネルギー、②生ごみの減量と資源化、③市街
地の緑化推進と雑木林の保全です。

私は今こそ一人ひとりが自分に出来ることから始め
なければならないと思い、この様なことを実行して
おります。電気の節電や、なるべく車に乗らず歩くこと。

我が家に於いては、ブロック塀を外し垣根や花壇に
替え、今年の夏はゴーヤのカーテンも経験しました。
窓際の緑のカーテンは目にも優しく涼しさを届けて
くれます。

また、雨水貯留容器も2箇所設置し、花壇の水遣り

に利用し、生ごみは堆肥化のバケツを購入して、EM
菌を使って堆肥化に挑戦。堆肥は庭先のミニ畑に利用
しました。

剪定枝は小さく切って天日で乾かし、カサカサに
成ってからゴミとして出します。ゴミは乾燥している
物のみを原則的に乾燥させてから出しますが、その前
に「とことん資源化に務め」最終的に資源化出来ない
ものをゴミとして出します。

私は今、省エネルギーの為のライフスタイルに転換
し、「とことんゴミの減量・資源化」に努め、緑いっ
ぱいの生活環境を目指しています。

いま、所沢市環境推進員さんは1125名ほどいま
す。環境推進員さん一人ひとりが、自分の出来るこ
とから始め、輪を広げていけば所沢市の環境は更に良
くなると思います。どうぞ環境推進員さんのみなさま
お一人おひとりにご協力頂き、所沢市の環境の為に
ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

平成22年度所沢市環境推進員連絡協議会総会

22年度総会は、6月2日西武ドーム「獅子」で開
催。21年度事業報告、決算報告そして古着古布陶磁
器回収事業や「歩きたばこ防止」などの各種キャンペ
ーン活動・研修計画など地域の環境美化活動や環境保
全の推進に向けての22年度事業計画とその予算につ
いて承認されました。

平成22・23年度の役員は、次のとおりです。

- 会 長 斉藤禮次郎（所沢）
- 副会長 坂下幸雄（松井）、鈴木興治（新所沢東）、
小林輝邇（富岡）
- 会 計 毛利吉成（山口）、峯岸邦夫（吾妻）
- 監 事 平野俊浩（小手指）、丸山千尋（柳瀬）



（左上）22年度事業計画の提案（坂下副会長）

（右下）懇親会



所沢市ごみ減量・資源化を進める市民会議について

この市民会議は、資源循環型社会の形成に向けて、市民参加による検討及び実践活動を通じて、家庭や事業所から排出されるごみの減量・資源化を進めることを目的としています。

市民会議の委員は、市長の委嘱を受けた44名でスタートしました。

このうち22名が所沢市環境推進員連絡協議会から推薦を受けた環境推進員（11地区×2名＝22名）で、重要なメンバーとして活躍しています。

市民会議の具体的な活動内容は、ごみ集積所に出す前やクリーンセンターに持ち込む前の段階でのごみ減量・資源化に関する調査、研究、周知、啓発などを行い、活動報告書を作成し市長に報告することになっています。

この活動に当たって、主な調査研究のテーマに基づき、次の4つの部会に分かれて活動しております。なお②・③・④の部会長に環境推進員が選出されています。

①生ごみ減量・資源化部会

家庭や事業所から排出される生ごみの減量・資源化について、その方法等を検討し、普及啓発を行います。現在まで13回の検討会を行い、議論を深めております。

②雑がみ、古布、剪定枝減量・資源化部会

雑がみの分別の普及啓発やごみとして排出される古布および剪定枝の削減等に取り組みます。

現在まで12回の検討会、リサイクルふれあい館の見学を行い、普及啓発等に関する研究を進めております。

③プラスチック類減量・資源化部会

レジ袋や「燃やさないごみ」に含まれているプラスチック類の減量を進めるため、減量や資源化について検討し、普及啓発を行います。

現在まで13回の検討会を重ねて、普及啓発等の研究を深めております。

④ごみ減量・資源化啓発・普及部会

「家庭ごみの分け方・出し方」について、よりよい形式での発行方法等を検討します。また、市の広報紙やホームページを活用し、効果的なごみ減量・資源化の周知等を行います。

現在までに14回の検討会と、「家庭ごみの分け方・出し方」についてのアンケートを実施して、その集計結果を分析し、具体的な改善案を作成中です。

どうぞ皆さん市民会議の活動の成果にご期待下さい。

※お問い合わせ

資源循環推進課 TEL 2998-9146



「雑がみ、古布、剪定枝減量・資源化部会」部会長になって

吾妻地区 鈴木由紀子

平成21・22年度と2年間、月1回開催されるこの部会に所属して、最初にしたことは「えらいことだ、何とかしなくては」が正直な気持ちです。

一日に760万円の費用をかけて、ゴミの処理をしていることに怖さを感じました。

私は自治会長も務めています。環境推進員も7年目です。地域の事を考えて、コツコツと努力してまいりましたが、この部会に所属して、市全体のことを考える立場になり、地域がバラバラなのに気がきました。

各地区のファイバーリサイクルも視察に行きました。が拠点回収がほとんどで、吾妻地区だけが全町内会が行っておりまして。雑誌の資源に戻す取組も、まだま

だ改良の必要があると思います。

来る10月30・31日に航空公園に於いて「所沢市民フェスティバル」が開催されます。その一角で、ゴミ減量に対するコーナーを設けますので、是非お立ち寄り下さい。

無料だからと、このまま工夫もせずにゴミを出し続けてよいのでしょうか。来年の6月まで、この疑問を市民一人ひとりが理解し努力しなくてはと答えを模索して行こうと考えています。

工夫をしなくて出し続けていけば、税金として自分達の所につけがまわることを訴えたいのです。

柳瀬地区環境美化の日

新しい試みで

柳瀬地区東所沢三丁目 佐々木

今年度の春の環境美化は、まさにゴミゼロ・5月30日(日)、新しい試みを二つ掲げて実施された。

一つは問題が多かった放置自転車の取り扱いについて新しいルールを決め警察・派出所と連携して作業を進めた(車数が多かったころ破砕処理車に放り込み児童を喜ばせた)。

それと全市をあげての清掃活動に小・中学校校長を通し児童生徒の参加を呼びかけたことで、将来、子供の美化の推進啓発に大きな相乗効果が期待されそう。

今回、当麻市長は柳瀬地区・東所沢3丁目・明改原公園での8時半からのセレモニーに出席、子供を含めた70人ほどの参加者へ激励感謝の言葉を述べられ、あと柳瀬区長会・松本会長、同大滝副会長の案内で東所沢町をまわり、あちこちでご苦労様の声をかけ、

9時半すぎ公務を終了された。



当麻市長と松本会長も一緒になって

環境は、人と自然のハーモニー 施設視察会報告

所沢地区 小泉英治

所沢地区では、平成22年9月8日(水)に参加者71名がバス2台に分乗し資源循環型リサイクル施設視察会を実施しました。

所沢市では、平成22年10月1日より廃プラスチック類を埋立処理から焼却処理へ変更されることにより、今後のごみの処理、流れについての視察研修としました。

埼玉県寄居町にある彩の国資源循環工場内8企業の中、(株)エコ計画、寄居中間処理総合リサイクルを視察研修しました。

廃棄物を燃焼して廃熱を肥料乾燥、焼却汚泥等に利用し、有機汚泥の肥料化、手分解、手選別による廃電子機器リサイクル、紙や木くず、廃プラスチックを原料とする高カロリーの固形燃料の製造、金属リサイクル等による20品目以上の廃棄物を原料とした総合的リサイクルを行う廃棄物処理施設です。

当サイトにて処理する廃棄物の再生利用率は、90%以上を実現しています。

次に同じ敷地にある最終処分場の埼玉県環境整備センターを見学しました。

廃棄物の処分地を自ら確保することが困難な市内の市町村・中小企業などのために、廃棄物の広域的埋立事業を実施しています。所沢市も利用していますが

10月以降は焼却することにより埋立量を大きく削減されます。

埋立地に施設されるシートは、遮水層2層の5層構造で底盤部には保護土及び砕石層を施行しています。

廃棄物を2.5mの高さに埋め立て、その上に0.5mの中間覆土を行い、これを繰り返すサンドイッチ工法による埋め立てを行っています。

また、搬入時の立会検査や浸出水質の検査処理を実施し、より安全に管理されています。

3号埋立地の様子は雨天の為、バスの中から職員の説明を聞きながら熱心に見学しました。



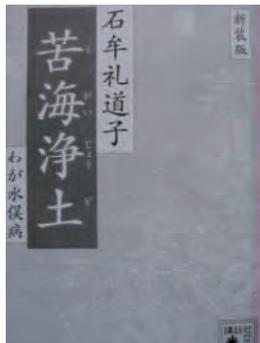
埼玉県環境整備センター研修

環境コラム 半世紀にわたる水俣病裁判 柳瀬・丸山千尋



日本は“60年安保闘争”を境に政治論争から経済優先政策に転じ高度成長を目指して走りだす。この結果、あちこちの自然環境を壊し住民の健康を犯した。あわてた政府は68年煤煙規正法を制定し、“59年から表面化し、もめ続けていた熊本県水俣病にも“68年12月公害病であるという認定を下す。つまり熊本の水俣病は新日本窒素・水俣工場から水俣湾に排出されたエチル水銀が原因であると断定した。それまでに熊本大学研究班が外国の症例検証の確認、猫への実験、胎盤での胎児への水銀移行の確認などを国や県へ報告したがチッソはこれを全面的には認めず患者への見舞金契約で巧妙に逃げ回った。公害病認定にもかかわらず平成の現代まで患者（新潟県水俣病を含む）と国・企業の訴訟裁判が続けられている。

“69年、熊本県天草生まれの無名に近い石牟礼道子さんが「苦海浄土」を世に出した。そこには手や足、口、耳などの不自由な患者の実態と国や企業など組織の冷徹さが生々しく描き出されていて、読者は大きな衝撃を受けた。かつての極楽の海を思いつつ脳の中樞神経を犯され死んでいった患者の苦しみは、いかばかりだったか。この作品はいのちの文学として第1回大宅貴に選ばれたが筆者は辞退した。なにが浄土の海を死の海に変えてしまったか。楽を求めつつける私ども庶民の責任でもある。



歩きたばこ等の防止啓発キャンペーンについて

今年は、7月1日（木）（一部地域では8日（木））に午後6時から、市内8駅の14出入り口で、歩きたばこ等の防止啓発キャンペーンを実施しました。キャンペーンには、各地区の環境推進員248名が参加して、約1時間喫煙マナーの向上を呼びかけました。



●春の環境美化の日・活動報告

5月30日（日）市内全域で春の「環境美化の日」一斉活動が実施されました。今回は、天気にも恵まれ、環境推進員をはじめ、自治会や多くの市民の皆様のご協力を頂きました。参加者数等は次のとおりです。

- 1、参加者数 25,775人（前年24,152人）
大人 22,606人 子供 3,169人
- 2、回収したごみの量 55.36トン（前年55.82トン）
なお、今回、放置自転車の盗難届の有無の確認でも多くのご協力を頂きました。

古着・古布・陶磁器リサイクル事業 （もったいない市）への協力について

今年上半期の古着古布・陶磁器リサイクル事業もったいない市が、5月9日・16日、6月6日・13日の4日間、旧市役所庁舎や公民館などの市内各拠点で行われました。

ご協力ありがとうございました。

古着古布の回収量は4日間の合計で55.67トン（前年57.35トン）、陶磁器は6.655トン（前年8.182トン）参加者延べ人数は8,269人（前年7,974人）なお、下半期は10月17日・24日、11月14日・21日に開催されます。ご協力をお願いいたします。

～環境推進員連絡協議会のホームページご案内～

- 1、所沢市ホームページのトップページを開く
- 2、「くらし」の矢印をクリック
- 3、「くらし」のページの中段「生活環境」の中の「環境」をクリック
- 4、「環境推進員連絡協議会」をクリック
- 5、「環境推進員連絡協議会」のページにアクセス
※本会報は1色刷りの白黒版ですがホームページ上ではカラー版を提供しています。

編集後記

猛暑日が70日以上を記録した暑い夏でした。今号は、各地区環境推進員の活動や地区活動を取り上げ編集しました。「無料だからと工夫もせずにゴミを出し続けてよいのでしょうか？」と“ごみ減量・資源化を進める市民会議委員”の吾妻地区の鈴木さん。発生抑制の啓発、普及をも交え、「とことん減量・資源化」をキーワードに一人ひとりの実践が大切です。水俣病裁判は、環境問題の原点と「環境コラム」欄の柳瀬・丸山さん。必見です。

編集長 毛利吉成（山口）
委員 丸山千尋（柳瀬）小林輝邇（富岡）
小泉英治（所沢）
事務局 所沢市環境クリーン部 生活環境課